

## ■特集：公開シンポジウム－新しい奄美世界の創出－(1)

プロジェクト代表あいさつ

山田 誠 (プロジェクト代表)

皆さん、こんにちは。鹿児島大学の山田と申します。当プロジェクトの第二回公開シンポジウムをこの和泊の地で開催させていただくことに、厚く御礼申し上げたいと思います。

第一回公開シンポジウムは、名瀬市で開催いたしました。私ども大学教師は、ただ自分の好きな分野に取り組んでいるだけです。自分たちの研究に対して、皆様が果たしてどの程度関心を持っていただけるのかということが分かっておりません。従いまして、名瀬ではどれ程の方々に関心を寄せていただけるのか、という不安を抱えながらシンポジウムを開催させていただいたところ、思わぬ大反響をいただきました。嬉し涙に暮れたところであります。

その日の懇親会におきまして、先ほどご挨拶をいただきました泉町長の方から、次回のシンポジウムを和泊で開催しては、というご提案をいただきました。私がシンポジウムの締めの挨拶の中で「今後は名瀬市に限らず、奄美のどこかほかの場所でシンポジウムを開催することができれば、もっと違った奄美が見られるのではないだろうか」と発言したことを受けての、早速のお申し出でした。私ども和泊町について疎い者ばかりでしたので色々な面で心配もありましたが、和泊町ご出身の皆村先生もおられますので、ここで第二回目を開催させていただこうと決心したわけでありました。

ところが、鹿児島の方で日々の雑務に追われておりまして、なかなか私の方がこちらへ足繁く通うができませんでした。そのために準備段階では色々ご迷惑をおかけいたしました、心苦しく思っております。現地の方で

のご協力がなければ、今日このように立派なシンポジウムを開くことはできなかつたと、心からありがたく思っております。とりわけ会場準備、それから皆様への宣伝など、役場の方はもちろんのことでございますが、沖永良部郷土研究会の皆様からもひとかたならぬお世話をいただきました。このお力がなければ、私ども、今回のシンポジウムをあるいは断念していたかもしれません。皆様の心温かいご協力をいただきまして、このように盛大にシンポジウムが開催されますことを、大変嬉しく思います。

沖永良部を含め、奄美は沢山の島々から成り立っております。その中で生活されている方々のご意見を伺いながら、これからの奄美のあり方について真剣に討議できるならば、有意義な機会となるのではなかろうかと思っております。今日はベテランの方も、或いは新進気鋭の方々も組み合わせて、多様性のあるプログラムを準備させていただきました。色々な面で率直な意見交換をしていただき、これからの奄美をどうしていくのかという手掛かりが掴めれば、主催する人間としては大変ありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

